

第67回名古屋矯正管区教誨師研修会（JKA 競輪補助事業）

記

- 1 実施年月日 令和5年6月14日(水) 午後1時30分から同5時まで
- 2 会 場 福井県福井市手寄1丁目4番1号
福井県県民ホール
- 3 目 的
新しい時代の矯正施設における宗教教誨の充実を図るために、比較的経験年数の少ない教誨師を対象として研修を行う。
- 4 研 修 題 主題：「新しい時代とともに」
副題：～生き抜く力を育む教誨を目指して～
- 5 参 加 者 158名
教誨師82名 矯正施設関係者51名
その他の関係者25名
- 6 大会内容
開会式
講 演
演 題 「歴史から考える宗教教誨の現在と未来」
講 師 東北大学 GSICS フェロー 繁田 真爾 氏
- 7 研修の成果

大会テーマである「新しい時代と共に」～教誨の歴史に学ぶ～に基づき、名古屋矯正名古屋矯正管区教誨師連盟に所属する教誨師が一堂に会し、宗教教誨に関する

研究協議の促進を図り、相互の理解を深めることを目的として研修を実施した。

基調講演では、宗教教誨の始まりから戦前戦後の歴史の変遷を通して、関する文献の解説を交えつつ教誨の必要性を語った。「宗教教誨の困難さ」をジレンマとしながらも、未来を展望していきたいというのが講演内容の趣旨であり、私たちは、深く考察する機会を与えられた。

また、パネルディスカッションでは、基調講演講師を交えて、実際に教誨活動を行っているパネラーと屈託のないディスカッションが交わされた。パネラーの名古屋矯正管区教誨師連盟会長の榎研治教誨師、同連盟副会長の加藤 幹夫教誨師、司会として福井県教誨師会からの日下部求教誨師は、それぞれ施設や教宗派が異なっており、

互いの視点から意見を交わした。また、参加した 教誨師からも意見を取り上げ、再犯防止に向けた取り組み、被収容者との接し方や今後の課題について話し合った。

今後の民間の篤志家である宗教者としての教誨師の位置づけを感じつつ、それぞれの宗教の教えに基づき、被収容者と共に語り、心を通わせながら、「どう被収容者とともに歩んでゆくのか」を踏まえつつ、再犯防止に向けた取組を 目指していく。さらに自己研さんを重ね、被収容者が改善更生を自覚するよう、今後も教誨師として努力していきたい。

この研修を通して、教誨活動をする者 にとって大変意義深い大会であったことをこの研修大会の成果とした。

○ 研修会場表示



○ 式典風景



○ 基調講演風景



○ パネルディスカッション場面

